

6年間一貫教育の本当の強みを生かし、生徒にとって最良の進路を実現する「超進学校」へ。



平井 正朗
初芝富田林中学校・高等学校
校長

私たちが掲げる「超進学校」とは？

初芝富田林中学校・高等学校は、1984年の創立以来、大阪府下において進学校としての確固たる地位を築いてきました。私はその伝統と実績の上に、新しい歴史を刻んでいきたいと考えています。それは、**難関大学合格者の数を追うのではなく、生徒の生涯を支える強固な学力を形成し、さらに生徒一人ひとりが自分の将来を考え、未来像を描き、その目標に合った最良の選択肢に向けてチャレンジしていく**、本来あるべき進路指導の姿を取り戻していくことです。

そのため全教員が意識改革を行い、教員組織を組み立て直し、保護者の皆様との信頼関係、情報共有のネットワークを再構築し、そして何よりも生徒一人ひとりと真摯に向き合う「**教育者としての熱い心**」を学校内に満ちあふれさせていきたいと考えています。

この新しい学校の姿を、私は「**超進学校**」と名づけました。それは保護者の皆様が思い描く従来の進学校のイメージを超えた、まったく新しい「**生徒全員が輝く未来創造のステージ**」となります。

この新しい『はつとん』に、大切なお子様を6年間、安心してお預けください。そしてお子様のこと、本校の教育のこと、進路のことなど、疑問やご意見、ご不満などがございましたら、どうぞご遠慮なく私にお申しつけください。校長室のドアは、いつも生徒と保護者の皆様のために開いています。

平井 正朗 プロフィール

大阪初芝学園理事/大阪市教育委員/国際教育学会理事
京都・兵庫の名門私立中学教諭から龍谷大学評議員・龍谷大学付属平安中学校高等学校校長補佐を経験。私立中高の学校経営や英語教育に精通し、トップリーダーとして現場に密着した視点と豊富な経験に裏打ちされたマネジメントへの評価は高い。

公職として、全国英語教育研究団体連合会(全英連)理事、京都府英語教育研究会連合会連絡協議会会長、京都府私立中高連合会外国語教育研究会委員長等を歴任。

著書として、『CROWN 英文法・語法問題実力完成演習』(三省堂)、『英語総合問題集 STAGE1~3』(Z会)、『現代入試長文の新潮流~感動する心と考える知性 HEART&MIND』(エスト出版)、『新聞英語の読解ストラテジー』(英潮社)などがある他、訳書、学外特別講義、スピーチコンテスト審査員など多数。

1

教育の「質」が変わります。

中学の3年間をかけて、徹底した基礎学力の育成をはかります。それは難関大学合格のためだけでなく、大学・大学院進学、そして社会人となった後も、**生徒の生涯を支える大切な「コア」になるもの**です。また高校からは、2020年に始まる「大学入学共通テスト」の動向と、**そこで求められる真の学力**を徹底分析し、生徒がどのような進路を希望しても対応できる高度で柔軟な学力形成を行っています。

中学・高校の6年間で3つのステップに分けて教育目標を設定。

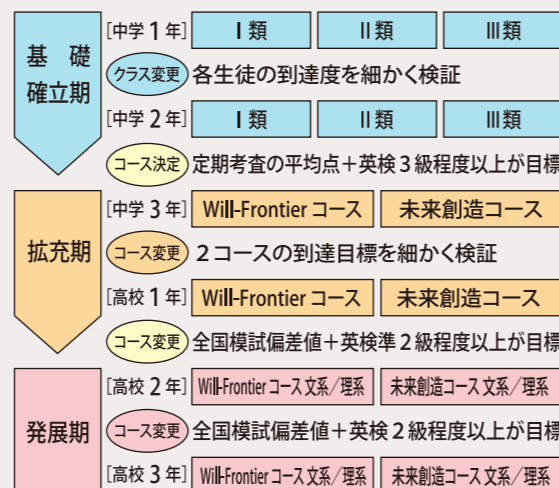
中学1年・2年を「基礎確立期」とし、学力別のⅠ～Ⅲ類にクラス編成。中学3年・高校1年の「拡充期」からは「Will-Frontierコース」と「未来創造コース」の2コースを編成してそれぞれ**目標とする学力レベルを設定**。さらに高校2年・3年の「発展期」にはコースを「**文系・理系**」に分けて**受験対策**を行います。

各ステップの到達目標を明確化し、検証と反復学習で全員の目標達成を。

6年間の各ステップごとに「定期考査の平均点」や「英検の級」「模試全国偏差値」といった**具体的な目標を設定**。日常的な小テストや個別指導により到達度を検証しながら、必要場合は補習や自習による反復学習を強化します。そして目標を達成した生徒は、希望にあわせて**上級クラスに変更できるしくみ**を作ります。

塾との連携による個別指導の強化。「カルテ」作成により情報共有を。

「学校でやりきること」と「外部の塾にまかせること」の線引きを行い、「個人の課題として克服が必要な分野の集中的な学習」や「志望校を絞り込んだ受験対策」については**学校と塾が情報共有**することで、学習効果を飛躍的に高めます。



2

教員の「意識と行動」が変わります。

「すべては生徒のために」というスローガンのもとに教員組織をシンプル化・スリム化。中学と高校の枠や学年の枠、クラスや教科の枠を取り払い、**全教員ですべての生徒を見守り、支える集団**へと生まれ変わります。また教員研修や学外との連携の強化で、常に新しい効果的なカリキュラム・授業を導入。本校の伝統である「**教員と生徒の距離の近さ**」と「生徒の課題や悩みを見逃さないフォロー体制」は大切に継承していきます。

主体的で対話重視の授業へ。ICTの活用で授業効率を高める。

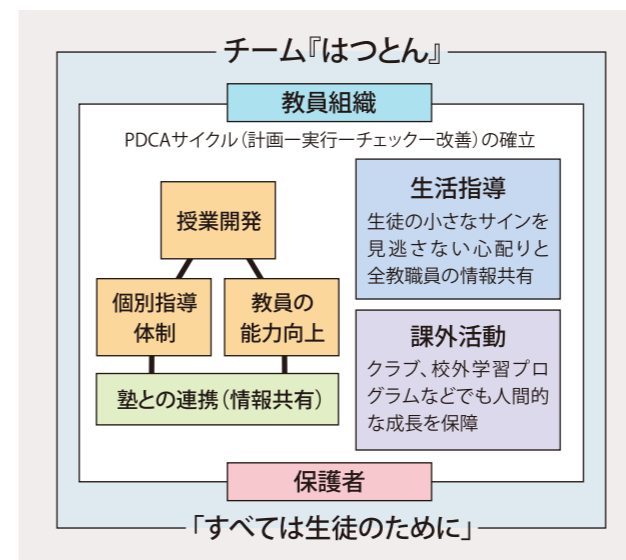
教員と生徒が対話し、生徒の主体性を引き出しながら、2020年からの「大学入学共通テスト」で問われる「**考える力・表現する力**」を高める授業へと改善します。またICT(情報通信技術)をフル活用し、**電子黒板やタブレットPCを活用した効率的で双方向的な授業**により、生徒が楽しみながら授業に参加できる環境を整備します。

進路指導のありかたを根底から見直し、「進路満足度100%」を達成。

偏差値のみで志望校を決めるのではなく、「**生徒が最適な進路を見つけること**」を最優先。そして生徒・保護者との対話の積み重ねにより、**本人が納得して志望校を決定し、その目標に向けて全力を出し切れる条件を整えます**。そのためのキャリア教育と大学研究、大学訪問などのプログラムも充実させていきます。

保護者との対話と情報共有を大切に、寄せられた意見を教育向上に活かす。

保護者の皆様と学校とのコミュニケーションを活発にするため、校長が先頭に立って保護者との対話を行います。教育方針や授業内容、日常の生徒指導のあり方や課外活動などについて、保護者のご意見や苦情に真摯に耳を傾け、それを**教職員に全体化し、教育の改善・向上に役立てていく風土**を再構築します。



3

立命館学園のグループ校として。

小学校から大学院までの教育機関を設置し、関西私学のトップに立つ立命館学園。大阪初芝学園は、**2008年に学校法人立命館と教育提携**を結び、立命館学園のグループ校になりました。今後はその**世界に広がるネットワークと教育資源を活用**し、教員の交流・研修、立命館の研究成果の活用、高大連携教育などにおいて、さらなる連携を強化しながら本校の教育の質的向上をはかります。

PBL授業などの先進的な授業のノウハウを積極的に導入。

立命館学園の附属校での先進的な実践として知られる**PBL教育(プロジェクト型授業)のノウハウを導入**。生徒が自ら調べ、問題を発見・解決し、プレゼンテーション・ディスカッションする能力を高めながら広範な知識を習得します。その他、立命館学園の**先進的な教育プログラムを積極的に導入**していきます。

立命館アジア太平洋大学(APU)との連携による、本格的な国際・英語教育の展開。

世界レベルの国際教育を展開する立命館アジア太平洋大学(APU)と連携した国際・英語教育プログラムを導入。これにより、2020年の「大学入学共通テスト」で問われる「**英語の4技能+異文化理解に基づくコミュニケーション力**」の育成を早期から行っていきます。

高大連携教育にも立命館学園のネットワークをフル活用。

3キャンパスに15学部を展開する立命館大学と、教員と学生の半数が外国籍という多文化環境をもつ立命館アジア太平洋大学(APU)との高大連携授業を展開。**早期から大学の授業を体験し、アカデミズムの世界に触れること**で、生徒が自分の将来像や職業について考える機会をふんだんに準備します。

